

# 人間関係づくり実践モデル事業 報告書

学校名（山口市立秋穂小学校）

## 1 学校の概要

本校は周防灘に面した気候温暖な地域にあり、山口市の南東部に位置している。海岸線は漁港、砂浜、半島などが豊かな景観をつくり、深く出入りする半島が特徴となっている。古くから漁労や製塩が行われ、広い耕地を利用した農業が盛んであったが、時代とともに兼業へと移っている。昭和46年に新校舎が完成したことを機に環境緑化に力が注がれ、全国表彰を受けるなど数々の実績を残している。現在も多くの庭木や樹木に囲まれ、静かな落ち着いた環境を整えている。

児童数271人、学級数12学級という中規模校で、スポーツ少年団や読書ボランティアサークルの厚い協力を得ながら、児童は明るく素直にすくすくと成長している。学習においては、友達の前で自分の考えを发表或し思いを表現したりすることが苦手であり、保護者も表現能力を身に付けさせたいという強い願いをもっている。また、もっている本来の力が十分に発揮されていない面があり、児童一人ひとりの実態に則したきめ細かな指導が必要とされている。

地域は三世代家族の割合が高く、人々は家族的な雰囲気の中でゆったりと生活してきたが、最近では核家族化が進み保護者の多様な価値観と相まって、家庭環境は次第に都市型に近づいている。PTA活動をはじめとする学校行事等への参加も積極的であり、保護者だけでなく地域の方々の学校教育に対する期待や関心は大きい。

## 2 児童の実態と事業の必要性

本校の「めざす児童像」は3本あり、その一つに「思いやり」をかかげている。具体的には温かみのある、やさしい子の育成をめざすもので学校生活の基本をなすものであると考えている。友人関係をめぐる問題で悩んでいる児童は増加している傾向にあり、原因は複雑で見えにくいものとなっている。今まさに、「豊かな人間性」「自分のよさ」の伸張は必要不可欠であり、温かい学級づくりが重要な鍵と思われる。児童の人間関係づくりは、一人では達成が困難な課題を仲間と協力し解決する体験を積むことによって培われるものであり、温かい集団づくりにつながってくる。

「AFPY」は、個々の児童が遊びの要素を通して、無意識のうちにお互いの心と心を通わせる場面を仕組むことにある。温かく見守ってくれる学級集団で、自分を思う存分に表現している様子を見るにつけ、この研修の重要性を感じてきた。好ましい集団で過ごす充実感や喜びを数多く体験できることで児童は大きく変容し、「個人の成長、好ましい仲間づくり」が見えてくる。言い換えれば、友達を大切に自分をも大切な存在であると自覚できる。しかし、子どもたちにとって自分で自分のよさに気づくことは難しいことであり、助けたり助けられたりする活動の中から、はじめて自分も誰かの役にたつ事を感じ取れる。

本校では三年間にわたり「人間関係づくり（AFPY）」を研修の中核にして取り組んできた。「友人関係をめぐるトラブル」で悩む児童に寄り添い、自分の力を生かし周囲もその児童を認める集団づくりこそが、本校の学校教育目標である「豊かな人間性を備え、自分のよさを発揮して生き抜くことができる児童の育成」をめざすことになる。それは、仲間づくりを通して、相手との信頼関係を築き自己意識の向上を図ることにもなっている。

### 3 取組の紹介

#### 【1年次】

##### (1) 具体的な取組内容

不登校を未然に防止するという観点に立つとき、幸いにも長期欠席等の該当児童がいない本校にとって、本事業のモデル実践指定は意味がある。3か年という長期間の指定ということ念頭に、本校児童の人間関係づくりにどのような体験活動が適しているのかを当初話し合った。そこで、間口を広くして、人間関係づくりに適した様々な体験活動を教職員が研修することにした。児童に対して実践する前に、教職員が人間関係づくりにかかわる体験活動について知ること、実践できるようになることが重要であると考えたからである。児童の夏季休業中を利用して、下記のように講師を招聘しての研修をもち、様々な体験活動についての知識や技能の修得に向けての研修を行った。

7月26日(月)	「AFPY」の概要・演習(大海小学校と合同)
	山口県教育研修所 研究指導主事 藤村 寿 様
7月28日(水)	構成的グループエンカウンター概要・演習
	下関市教育委員会 教育相談員 安富 淳子 様
8月26日(木)	構成的グループエンカウンター概要・演習
	下関市教育委員会 教育相談員 安富 淳子 様
8月30日(月)	「AFPY」の概要・演習(台風接近につき中止)
	山口県教育研修所 研究指導主事 藤村 寿 様

このような研修を経て、「個人の成長」「仲間づくり」が活動目標である「AFPY」を本校の人間関係づくりにかかわる体験活動・カリキュラム開発の指標とすることにした。

9月以降も教職員の「AFPY」の知識や技能の修得をねらいとした研修を行うとともに、どのような活動を選択し、授業でどのように進めていくかをブロック別(1・2年、3・4年、5・6年)で話し合い、随時、人間関係づくりの学習に取り入れた。

10月28日(木)	「AFPY」の演習
11月29日(月)	「AFPY」の演習
12月 9日(木)	「AFPY」の演習
※ すべての「AFPY」の演習を山口教育研修所 研究指導主事 藤村 寿 様に講師を依頼した。	



##### (2) 1年次の成果と課題

1年間、教職員の演習を中心に研修を深めたことで、全教職員が本校の人間関係づくりの実践に向けての方向性を共通理解することができた。また、教職員が4回の「AFPY」演習において59の活動を知り、実体験できたことは何事にも得難い成果である。

今年度、本校における人間関係づくりを教育課程に位置付け、来年度の人間関係づくり年間指導計画を作成することができた。しかし、この年間指導計画は試行の段階であり、来年度以降の継続的・計画的な人間関係づくりの実践に向けての指標といえる。

## 【2年次】

### (1) 具体的な取組内容

今年度より「人間関係づくり」を校内研修として取り上げ、研修テーマを決め研究仮説を立て、昨年度作成した年間指導計画にそって授業に取り組むことにした。

#### ① 研修テーマ

明るく、生き生き、思いやりあふれる人間関係づくり  
～ 一人ひとりの良さが生かされる温かい学級づくり～

#### ② 研究仮説

- ・「AFPY」を計画的継続的に実践することにより、温かい仲間づくりができるだろう。
- ・学年の段階を追ったカリキュラムを作ることでよりよい学級づくりができるだろう。

#### ③ 研修内容

##### ○ 年間指導計画の修正・改訂

各学年学期ごとに「人間関係づくり」年間指導計画にそった実践・修正

##### ○ 教師の「AFPY」「構成的グループエンカウンター」演習

7月27日(水)「AFPY」の講義・演習(大海小学校と合同)  
長門市立深川中学校 教頭 藤村 寿 様  
7月28日(木)「AFPY」の講義・演習  
山口県教育研修所 研究指導主事 中原 誠 輔 様  
8月5日(金)構成的グループエンカウンターの概要・演習  
鈴峯女子短期大学 助教授 森 洋 介 様

##### ○ 「人間関係づくり」の授業研究

学期に1回、全校での授業研究

すべての授業研究の講師を山口教育研修所 研究指導主事 中原 誠 輔 様に依頼

#### ④ 実践事例(第5学年の授業実践)

##### ○ 単元名 わかろうとすること

##### ○ 本時案

##### ・ねらい

「ふわふわ旅行」や「魔法の跳び箱」などの活動を通して、お互いの意見やアイデアを率直に伝えたり、粘り強く試行錯誤したりすることができる。

##### ・学習過程

学習活動・学習内容	教師の支援
1 ラインナップを行い5～6人のグループを作る。 ・誕生日別グループ	○男女混合になるように誕生日を組み合わせる。 ○本活動で初めて構成されたグループ

<p>(4月・5月・7月…男子2女子4 計6人)  (6月・9月……………男子3女子3 計6人)  (8月・3月……………男子2女子3 計5人)  (10月・12月・2月…男子2女子4 計6人)</p> <p>2 本時のめあてをつかむ。</p>	<p>なので正しくできているか確認し、正しくできていたら賞賛し、意欲をもたせる。  ○誰もが意見を言いやすくするためにグループを少人数構成にする。</p>
<p>お互いの意見やアイデアを率直に伝えよう。</p>	
<p>3 「ふわふわ旅行」をする。  ・ルールの確認  ・グループでの協力</p> <p>4 「魔法の跳び箱」をする。  ・ルールの確認  ・学級全員での協力</p> <p>5 「ふりかえり」をする。  ・楽しかったこと  ・うれしかったこと  ・友達の様子</p>	<p>○1つの羽毛を落とさずにかごまで運ぶことを伝え、グループの協力が必要であることを気づかせたい。  ※貧血で倒れないように注意を促す。</p> <p>○学級全員が跳び箱に乗っていることが成功であることを伝える。グループ間で励まし合うような雰囲気作りに務める。  ○跳び箱の数を次第に減らしていく。  ○練習時間を長めにとり、話し合いや試行錯誤する時間を確保する。  ※安全を考慮して、マットの上に跳び箱を置く。</p> <p>○振り返りカードに記入することで自分の考えをまとめさせる。また、取り上げることができなかった意見は次時に教師が紹介する。</p>

・ 授業後の感想

児童一人ひとりがそれぞれ活動に進んで参加し、意見やアイデアを活発に出し合い、学級全員が課題解決に向けて取り組んでいた。活動の中でお互いを認め合い、学級集団で活動することの喜びを感じることができた授業であった。

(2) 2年次の成果と課題

年間指導計画では、作成した「人間関係づくり年間指導計画」には具体的な活動内容が入っており、主活動と準備活動を明記し活用しやすいものとなった。授業研究では、低・中・高と年間3回の授業を行い、学年の発達段階に合った指導を見ることができ実践に役立った。毎学期、講師の先生に来ていただき指導を受けることができたのも有意義であった。

児童の変容としては、継続して「AFPY」の手法を取り入れた体験学習を実践することで、学級の児童が落ち着いた。「人間関係づくり」の授業で多くの友達とふれあうことを楽しみにする児童が増えてきた。また、学級の様子や問題点がよくみえるようになった。

課題としては、めざすものが明確にされていないとねらいが焦点化されない授業になってしまうおそれがある。学級集団を「人間関係づくり」の実践を通して、どう変容させたいのかを各担任が年度当初に明確にし構想をもつことが必要である。今年度は、各担任が児童の活動や表現を観察して成果を見てきた。今後は、「温かい学級づくり」を客観的に評価していくことも必要である。評価方法の一つとして、年間を通して継続的なアンケートを実施することで成果を見ることも考えられる。

### 【3年次】

#### (1) 具体的な取組内容

昨年度からの研修テーマを引継ぎ、2年次の課題をふまえて校内研修として取り組んだ。

##### ① 研究仮説

・「AFPY」を中心とした体験活動を計画的継続的に実践することにより、温かい仲間づくりができるだろう。

##### ② 研修内容

###### ○ 年間指導計画の改訂・完成

昨年度作成した「人間関係づくり年間指導計画」にそった実践・改訂

###### ○ 教師の「AFPY」演習

夏期休業中に2回、講師を招聘して演習を中心とした研修の実施

7月26日(水)「AFPY」の講義・演習

山口県教育研修所 研究指導主事 中原 誠 輔 様

7月28日(金)「AFPY」の講義・演習(大海小学校と合同)

長門市立深川中学校 教頭 藤村 寿 様

###### ○ 「人間関係づくり」の授業研究

学期に1回、全校での授業研究

すべての授業研究の講師を山口教育研修所 研究指導主事 中原 誠輔様に依頼

6月30日(金) 6年生の授業

単元名 できるかな

主活動 アースボール

11月16日(木) 4年生の授業

単元名 わかろうとすること

主活動 フープリレー

2月 1日(木) 1年生の授業

単元名 何が大事?

主活動 ビート・スタンドアップ



【ビート】



【スタンドアップ】

- 「仲間づくり」アンケートの作成・実施  
本校独自の「仲間づくり」アンケートを上下学年別に作成し、学期に1回実施  
個人得点の集計・評価

- 「めざす学級像」の決定  
第1回「仲間づくり」アンケートの結果をもとに、低・中・高学年ブロックごとに「めざす学級像」の決定

③ 実践事例

- 「仲間づくり」アンケートの実施（5月・9月・2月に実施）

温かい学級とはどんな学級なのかをまず各担任がはっきりとイメージすることが大切である。そこで、全児童に「仲間づくり」アンケートを実施した。アンケート結果は、個人ごとに合計点（40点満点）を出す。それぞれの児童についての理解を深め、その変容について知る手がかりとした。20点以下の児童については、特に年間を通して見守り支援していくこととした。

	質 問	は い	ま あ ま あ	あ ま り	い え
1	わたしは、学級の人や先生からほめられることがある。	4	3	2	1
2	わたしが困ったとき、学級の人には助けてくれる。	4	3	2	1
3	学級のみんなは、わたしの考えや話を聞いてくれる。	4	3	2	1
4	わたしは学級の中で、いやな思いをすることは無い。	4	3	2	1
5	わたしは休み時間などに、一緒に遊ぶ友達がいる。	4	3	2	1
6	わたしは、グループ学習の時などグループに入れる。	4	3	2	1
7	学級のみんなは、わたしに話しかけてくれたり、親切にしてくれたりする。	4	3	2	1
8	学級の中には、仲の良い友達がいる。	4	3	2	1
9	わたしの学級は、みんなで仲良く協力しあっていると思う。	4	3	2	1
10	学級のみんなと、いろいろな活動をするのは楽しい。	4	3	2	1

- めざす学級像

「仲間づくり」アンケートの実施第1回アンケートをもとに各ブロックで、めざす学級像について話し合い決定した。

ブロック	めざす学級像
低学年	誰とでも仲良く楽しく活動する学級
中学年	友達と協力し良いところを認め合う学級
高学年	相手の気持ちを思いやる学級

#### 4 3年間を通しての取組の成果と課題（まとめ）

##### （1）年間指導計画

低学年では学級活動に、中・高学年では総合的な学習の時間に「人間関係づくり」の授業を年間17時間ずつ位置づけ実践した。「人間関係づくり年間指導計画」には、「個人の成長」「仲間づくり」が活動目標である「AFPY」の主活動・準備活動の欄を設けた。アクティビティ（「AFPY」の個々の活動）の内容も明記し、実際に実践しやすい形式にした。準備活動欄のアクティビティは複数記載し、児童の実態に応じて選択できるようにした。

##### （2）授業実践

年間指導計画にそって各学年で授業を行うことで、教師も児童も「人間関係づくり」ということを生活の中で意識することができた。「AFPY」の手法を取り入れた授業をすることで、教科の授業では見られない児童の人間関係を見ることができた。

1時間の授業の中で、一つの課題を達成するために児童が試行錯誤する中で、学級の友達を意識しお互いに分かり合うことができる。今、児童にどんな力を付けさせたいのか、教師がはっきりとしたねらいをもち、授業を仕組んでいく必要がある。同じアクティビティでも学年やねらいによって児童への提示の仕方を変えていく必要がある。学級集団で過ごす充実感や喜びを数多く体験することで、よりよい人間関係が生まれるといえる。

##### （3）「仲間づくり」アンケートの作成・実施

どんな質問をすれば、児童の人間関係を知ることができるのか、話し合いを重ね「仲間づくり」アンケートを作成した。アンケートをすることで、学級の問題点や指導を必要とするところが見えてきた。また、教師が児童一人ひとりを見つめ直すよい機会にもなった。1学期に得点の低かった児童については、自分のよさに気づくことができるよう特に注意深く見守り支援してきた。

学期に1回、年3回実施することで、学級集団の変容を知る手がかりになったといえる。しかし、アンケートからだけでは知ることのできない部分も多いので、日々の実践の中から児童の活動や表情などを観察していく必要がある。

##### （4）終わりに

よりよい「人間関係づくり」のために、本校では「AFPY」を中心とした体験活動を多く取り入れた。教職員自身が演習を重ね、その手法を体得したことは大きな成果である。教師が意図的に課題解決の場を仕組み、児童はその課題を解決していく中で、自分を表現したり学級の友達を理解したりすることができた。この積み重ねで、友達を大切に自分をも大切な存在であると自覚していくことができる。集団で活動することのよさ、集団の一員であることの心地よさを体感する。こうしてよりよい人間関係が作られていくといえる。

「温かい学級づくり」をめざして校内研修を進めてきたが、目標がどこまで達成できたのか評価することは大変難しい。アンケートを参考に配慮を必要とする児童を見守り支援したり、授業実践の中から児童の活動や表情を観察したりして児童の変容を評価して行かなくてはならない。学級集団で過ごす充実感や喜びを数多く体験できることで児童は大きく変容する。本校児童の今と何年か先の「人間関係づくり」がよりよいものとなるために、教師と児童・児童と児童の距離がさらに縮まるよう今後も研修を積んでいきたい。

## 5 人間関係づくり年間指導計画

「人間関係づくり年間指導計画」（「AFPY」の体験活動を中心に、年間17時間の授業を計画）の中から1年生と6年生の年間指導計画を紹介する。

### 第1学年 1学期

月	児童の実態	活動のねらい	主活動（活動の分類）	準備活動（活動の分類）
			内 容	内 容
4	初めての小学校生活に、期待と不安をもって入学してきた1年生である。 出身が同じ幼稚園や保育園の友達とかがたまりがちで、新しい友達との交流がなかなか持てない子どももいると思われる。	<b>「どんな学級にする？」</b> お互いの名前や特徴を知り合うことが中心となる。 (3)	<b>ネームターン【A】</b> 全員が輪になる。それぞれが同時に軽く飛び上がり、右か左に向きを変え、向き合った者同士は握手をしてあいさつをする。そうでない者は待つ。場所を入れ替わって繰り返す。	<b>シェイカーズ【A】</b> 適当に分散し、1分間でできるだけ多くの相手と握手をし、自己紹介しあう。2分、3分と時間を少しずつ長くしていくパターンと「10人と握手する」など人数を決めておくパターンがある。
			<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <b>活動の分類</b>            【A】 知り合うための活動            【B】 緊張をほぐすための活動            【C】 意志疎通を図るための活動            【D】 信頼関係を確認する活動            【E】 意志決定・課題解決のための活動            【X】 目標設定やふりかえりの活動            ※「AFPY 入門」活動の分類より            ( ) は時数         </div>	<b>2人おに【B】</b> まず、リーダーが通常のおにごっこより狭い範囲を決める。2人組になり、どちらかがおにになる。タッチされたら、出身幼稚園・保育園名を言った後追いかける。危険防止と体力差解消のため走ってはいけない。 <b>なかまさがし【C】</b> 「好きな食べ物」「好きな動物」「好きな乗り物」「誕生日」「血液型」などリーダーが示した条件に合う仲間を捜す。時間を決めて、仲間を探せなかったらアウトというパターンもある。
6	友達の名前も覚え、交流が深まりつつある時期。しかし、まだ、学級に十分馴染めない子どももいると思われる。	<b>「参加しよう」</b> 「できる／できない」、「わかる／わからない」を越えて、自分なりに積極的に参加してみる。また、お互いが参加しやすい雰囲気になるような努力が大切であることを知る。 (3)	<b>風船パニック【E】</b> 10人組になる。1人1個ずつ風船を用意する。全員で風船を落とさないようにつき続ける。できたら、風船の数を少しずつ増やしていく。	<b>3回じゃんけん【A】</b> 分散して、適当な相手を見つけ、じゃんけんをする。3回連続して勝ったら、アウトして待つ。途中で負けたら、初めからやり直し。できるだけ毎回違う相手とじゃんけんするように働きかける。
			<b>じゃんけんチャンピオン【B】</b> 分散して、適当な相手を見つけ、じゃんけんをする。負けた者は勝者の後ろにつく。これを繰り返し、最終的には全員が縦1列になる。この時一番前にいる者が「じゃんけんチャンピオン」である。	
7				<b>宇宙人おに【B】</b> 全体を3つに分ける。「頭星人」は片手を頭に「おなか星人」は腹に、「おしり星人」は尻にあてたまま、鬼ごっこをする。タッチされたら、その宇宙人に変身する。最終的に最も人数の多い組が勝ち。

第1学年 2学期

月	児童の実態	活動のねらい	主活動 (活動の分類)	準備活動(活動の分類)
			内 容	内 容
9	<p>運動会や「Let'sはあもにい」など行事の多い二学期、子どもたちは集団で行動することが多くなってくる。その中で、集団で活動することの楽しさを感じ始めると思われる。</p> <p>しかし、自分勝手な行動をとる子どももいると考えられる。</p>	<p>「ふれあい」 視覚を遮断することによって生じる不安感と支援されることの安心感を味わう。同じように誘導しても、ちよっとしたことでも不安になったり、安心できなかったりすることを表現し合う。(3)</p>	<p><b>じゃんけんおに【B】</b> 一定の範囲を決める。全員が右手を挙げ、じゃんけんをする。全員が鬼であるが、じゃんけんで勝てる相手しかタッチできない。10秒たったら、じゃんけんをやり直す。タッチされたら、外に出て待つ。</p>	<p>したことある人【A】 全員が輪になる。リーダーが「～したことある人」「～が好きな人」等条件を示し、該当する者は手を挙げる。何人であっても、手を挙げた者同士で場所を交替する。これを繰り返す。</p>
			<p><b>動物集まり【A】</b> 全体が4～5つのグループに分かれるように、動物名を書いたカードを1人1枚ずつ配る。カードに書いてある動物のまねをしながら、同じ種類ごとに集まる。集合が終わったら、間違いのないか確認する。</p>	
10	<p>ふれあいが多くなり、友達との交流が深まるにつれて、もめ事も出てくると思われる。自分の思いを相手に伝えることが難しいと感じる子どもが出てくると思われる。また、相手に受入れてほしいという願いを強くもつようになると考えられる。</p>	<p>「わかろうとすること」 お互いの意見やアイデアを率直に伝えられたか。発想の転換や粘り強い試行錯誤を繰り返せたか。今まで確認してきたことを活動の中で生かして、お互いにわかろうとしているかを確認する。(4)</p>	<p><b>ロボット【C】</b> 2人組になり、ロボットとラジコンの操縦者になる。操縦者は「立て」「起きろ」などと直接言わずにロボットを立たせる。役割を交替して良い方法を考える。</p>	<p><b>キャッチボール【A】</b> 2人組になり、1人が1つずつボールを用意する。はじめは3mぐらい離れて向き合い、同時にボールを投げる。お互いのボールを落とさずにキャッチできたら、徐々に距離を離していく。</p>
			<p><b>ミラーストレッチ【A】</b> 2人組で通常のストレッチを行う。次に向かい合い、一方が他方の動きをできるだけ忠実にまねる。</p>	
12	<p>ふれあいが多くなり、友達との交流が深まるにつれて、もめ事も出てくると思われる。自分の思いを相手に伝えることが難しいと感じる子どもが出てくると思われる。また、相手に受入れてほしいという願いを強くもつようになると考えられる。</p>	<p>「わかろうとすること」 お互いの意見やアイデアを率直に伝えられたか。発想の転換や粘り強い試行錯誤を繰り返せたか。今まで確認してきたことを活動の中で生かして、お互いにわかろうとしているかを確認する。(4)</p>	<p><b>インパルス【A】</b> 全員が輪になって手をつなぐ。リーダーから順に手を握り、インパルス(電波)を送っていく。次に、リーダーを起点にして、左隣の動作をまねしていく。リーダーは順次動作を変化させる。</p>	<p><b>インパルス【A】</b> 全員が輪になって手をつなぐ。リーダーから順に手を握り、インパルス(電波)を送っていく。次に、リーダーを起点にして、左隣の動作をまねしていく。リーダーは順次動作を変化させる。</p>

第1学年 3学期

月	児童の実態	活動のねらい	主活動 (活動の分類)	準備活動(活動の分類)
			内 容	内 容
1	友達や学級に慣れてきた反面、友達に対するイメージや人間関係が固定化されがちな時期である。そのため、新しい人間関係をもちたいと願う子どもも増えてくると思われる。	<b>「何が大事？」</b> お互いに声をかけあったり、反応したりすることで得られる楽しさや安心感を味わう。コミュニケーションをはかろうとする態度が日常生活の中でも生かされているか考えてみる。 (3)	<b>スタンドアップ【E】</b> 2人組で向き合い両手をつなぐ。足の先をお互いにつけたまま同時に立ち上がる。4人、8人、16人と増やしていき、最後は全員で立ち上がる。	<b>ラインナップ【A】</b> 全員が輪になる。基準を決め、「名前のあいうえお順」に並び替える。タイムを測っておき、「姓のあいうえお順」で並び替える。いろいろな条件を示し、いかにしたら早く並べるかを考える。
			<b>いす取りゲーム【B】</b> リーダー以外の人数分より1つ少ない数だけいすを用意する。音楽が鳴っている間は動き回る。リーダーが音楽を止めたら、全員いすに座る。いすにすわれなかった者がリーダーになり、いすを1つずつ減らして続ける。	
2			<b>ビート【E】</b> 2人組で拍手1回の後、相手と1回手を合わす。1. 2. 3. 4. 5. 4. 3. 2. 1の順にし、できるだけ早く行う。次に、4人、8人と増やしていき、最後は全員で行う。	
3	1年間一緒に活動してきた友達に感謝の思いをもったり、自分の成長に目を向けたりすることができると思われる。	<b>「最後の挑戦」</b> 一人ひとりの感想や印象を自由に表現する場を作る。それにより、活動全体に対する振り返りを行い、気づいたことを確認し共有する。また、より現実的な課題について考える機会とする。 (1)	<b>サンクス【X】</b> 1年間の活動の中で感謝したいことを、一人ひとりに対して具体的に述べる。発言の前に、具体的な場面をよく思い出す時間を用意しておくことが重要である。	<b>ふりかえり【X】</b> 一人ひとりが、1年の初めに学級がうまくいくために必要だと感じたことを再確認し、今後大切にしたいことを言いながら、ボールを箱に入れていく。(ビーイング)

第6学年 1学期

月	児童の実態	活動のねらい	主活動 (活動の分類)	準備活動 (活動の分類)
			内 容	内 容
4	進級し、最高学年として頑張ろうという意欲に満ちている。しかしクラス替えで友達関係に微妙な変化も見られ、不安な児童もいると思われる。	「 <b>友達のことを知ろう</b> 」 新しい学級の友達に少しずつ慣れてくる時期である。活動を通して、お互いに名前を覚えていくかを確認したり、お互いのよさや特徴について知り合ったりするきっかけとする。(2)	<b>名刺交換【A】</b> 自分の名前は書かないで、自分の特徴を記入した名刺を作る。(好きな絵・趣味・身長・誕生日・家族など) 出会った人と、握手、名刺交換をし、自己紹介。名刺をもったら、次は名刺の人になりきって次の人と名刺交換をする。合図があるまでいろいろな人になりきる。最後に手元にある名刺の他自己紹介をする。	したことある人【A】 全員が輪になる。リーダーが「～したことある人」「～が好きな人」等条件を示し、該当する者は手を挙げる。何人であっても、手を挙げた者同士で場所を交替する。これを繰り返す。
		「 <b>どんな学級にする?</b> 」 お互いの名前や特徴を知り合うことが中心となる。全員で共通理解し、年間の活動目標やルールを設定する。(1)	<b>ビーイング【X】</b> 大きな紙に人型を描く。今からよい学級にしていくために必要な要素を人型の内側に、不必要な要素を外側に書く。内容を修正し、了解した者から署名する。作業終了後、教室の壁面に掲げておく。	みんなおに【B】 適当な範囲を決めて分散する。一人ひとりが鬼なので、先にタッチされたらその場に座る。危険防止と体力差解消のため走ってはいけない。「生き返り」ルールを適用すると、長い時間でも楽しめる。
5	新しいクラスにも慣れ、人間関係が固定し始める頃と思われる。	「 <b>参加しよう</b> 」 「できる／できない」、「わかる／わからない」を越えて、自分なりに積極的に参加してみる。また、目に見える参加の仕方だけでなく、目に見えない参加の仕方もあることを知る。(2)	<b>カウントオフ【E】</b> 全員が輪になり、リーダーが人数を確認する。順不同、合図なしで、1から最後の番号(20人なら20)まで数え上げる。声が重なったらはじめからやり直し。	進化じゃんけん【B】 初めは全員が「かに」なので、その格好になる。じゃんけんをして勝ったら「うさぎ」「サル」「人間」と進化していく。人間は範囲外で待つ。途中でじゃんけんに負けると、前の段階に戻る。
		「 <b>できるかな</b> 」 2人なら簡単にできることでも、4人、8人と人数が増えくると同じ方法が使えなくなる。その時、お互いの意見を十分に話し合っ課題を達成する喜びを感じ取る。(1)	<b>カウントオフ【E】</b> 全員が輪になり、リーダーが人数を確認する。順不同、合図なしで、1から最後の番号(20人なら20)まで数え上げる。声が重なったらはじめからやり直し。	<b>魔法の鏡【C】</b> 全員で輪を作る。全員で作った輪のうちの2人がそれぞれの片手でフラフープを持ち、鏡を作る。手を離さないで、魔法の鏡(フラフープ)の向こう側に、最初と同じ隊形を作ることが課題である。
6	新しいクラスにも慣れ、人間関係が固定し始める頃と思われる。	「 <b>できるかな</b> 」 2人なら簡単にできることでも、4人、8人と人数が増えくると同じ方法が使えなくなる。その時、お互いの意見を十分に話し合っ課題を達成する喜びを感じ取る。(1)	<b>アースボール【E】</b> ビーチボールを1つ用意する。課題は、全員が1人1回ずつボールを落とさずにつくこと。一度ボールをつくと、一巡するまでさわれない。目標をグループで決定してから挑戦する。	<b>フープリレー【E】</b> 輪の中にフラフープを1つ入れる。フープが輪を1周する時間を計測する。これを基本タイムとして、目標タイムを設定し、クリアする方法をみんなで考える。
			「 <b>できるかな</b> 」 2人なら簡単にできることでも、4人、8人と人数が増えくると同じ方法が使えなくなる。その時、お互いの意見を十分に話し合っ課題を達成する喜びを感じ取る。(1)	<b>アースボール【E】</b> ビーチボールを1つ用意する。課題は、全員が1人1回ずつボールを落とさずにつくこと。一度ボールをつくと、一巡するまでさわれない。目標をグループで決定してから挑戦する。
7	新しいクラスにも慣れ、人間関係が固定し始める頃と思われる。	「 <b>できるかな</b> 」 2人なら簡単にできることでも、4人、8人と人数が増えくると同じ方法が使えなくなる。その時、お互いの意見を十分に話し合っ課題を達成する喜びを感じ取る。(1)	<b>アースボール【E】</b> ビーチボールを1つ用意する。課題は、全員が1人1回ずつボールを落とさずにつくこと。一度ボールをつくと、一巡するまでさわれない。目標をグループで決定してから挑戦する。	<b>風船パニック【E】</b> 5人組になる。1人1個ずつ風船を用意する。全員で風船を落とさないようにつき続ける。できたら、風船の数を少しずつ増やしていく。
			「 <b>できるかな</b> 」 2人なら簡単にできることでも、4人、8人と人数が増えくると同じ方法が使えなくなる。その時、お互いの意見を十分に話し合っ課題を達成する喜びを感じ取る。(1)	<b>アースボール【E】</b> ビーチボールを1つ用意する。課題は、全員が1人1回ずつボールを落とさずにつくこと。一度ボールをつくと、一巡するまでさわれない。目標をグループで決定してから挑戦する。

第6学年 2学期

月	児童の実態	活動のねらい	主活動 (活動の分類)	準備活動(活動の分類)
			内 容	内 容
9	小学校生活最後の運動会やLet'sはあもにいななどの行事を成功させようと、徐々に団結を強めていくことが期待される。	<b>「勝ち負けじゃなく」</b> 1つのやり方が見えてきたら、次の課題を設定する。また、どの時点で活動を終了するかもグループ全員の合意によって決定されることを確認する。(チャレンジ・バイ・チョイス) (1)	<b>ビーイング箱型【E】</b> 1人ずつ箱に玉を入れていく。その際、これから、2学期に学級としてうまくやっていくために必要と思う要素を言う。思いを共有するため、箱を一巡させたら、次は足だけを使って箱を回す。	<b>ハンドクラッピング【A】</b> 全員が輪になって、隣同士の右手と左手を使って拍手をする。小さな音からだんだん強くしていく。最後は、三三七拍子や三本締めなどパターンを決めてやってみる。
10	しかし反面落ち着きを欠き、ささいなトラブルも起きてくることが予想される。	<b>「ふれあい」</b> 視覚を遮断することによって生じる不安感と支援されることの安心感を味わう。同じように誘導しても、ちょっとしたことで不安になったり、安心できたりすることを表現し合う。(2)	<b>ブラインドラインナップ【E】</b> 1から番号をかける。課題は、全員が目をつぶり、黙ったまま番号順に並ぶこと。事前に十分な意見交換をし、作戦を立てることが重要である。途中でも、随時作戦を練り直す。	<b>目隠し鬼【B】</b> 2人組になり、後ろの者が前の者を声だけで誘導する。前の者は目をつぶり、両掌を前に向ける(バンパー)。1組だけ鬼になり、2人1組の鬼ごっこをする。走ってはいけない。
11	大きな学校行事を終え、満足感や達成感とともに、落ち着いた学校生活が戻ってくると思われる。	<b>「わかっていくこと」</b> お互いの意見やアイデアを率直に伝えられたか。発想の転換や粘り強い試行錯誤を繰り返せたか。今まで確認してきたことを活動の中で生かして、お互いにわかっていくかを確認する。(2)	<b>ふわふわ旅行【E】</b> 10人組。ティッシュを目的のかごまで、息を吹きかけて落とさずに運ぶことが課題。初めは小片を渡す。その後はティッシュの大きさはグループで決める。	<b>セブンアップ【B】</b> 7人のリーダーが前に出る。残りの人は右手の親指だけを立てて顔を伏せる。7人のリーダーは1人1回、伏せているどれかの親指にタッチする。伏せていた人が誰にタッチされたかを予想して当てる。
12	男女も互いに認め合うようになることが期待される。	<b>「工夫しよう」</b> 何事もいつもうまくいくとは限らない。むしろ、うまくいかないことの方が多い。様々な意見を調整したり、アイデアを出すことによって、少しずつ課題達成に近づいていく楽しさを味わう。(1)	<b>ヒューマンノット【E】</b> 10人ずつに分かれる。両手を前方に出し、違う相手と握手する。インパルスで一重であることを確かめてから、手を離さずに輪をほどこき、最終的には一重の輪になる。	<b>スピードラビット【B】</b> 輪の中心にいるリーダーに指された者とその両隣の3人で「うさぎ」「牛」「象」「木」などの形を3秒以内に作る。制限時間内に作れない時は、指された者がリーダーとなる。

第6学年 3学期

月	児童の実態	活動のねらい	主活動 (活動の分類)	準備活動(活動の分類)
			内 容	内 容
1	卒業の時期が近づき、これまで一緒に過ごしてきた友達や、お世話になった方々との別れを意識し始めると思われる。	<b>「何が大事？」</b> お互いに声をかけあったり、反応したりすることで得られる楽しさや安心感を味わう。コミュニケーションをはかろうとする態度が日常生活の中でも生かされているか考えてみる。(1)	<b>目隠し多角形【E】</b> 10人ずつに分かれる。全員が目をつぶったまま移動して、ボーリングのピンの配列を作る。必要なら、「口をきかない」という条件をつける。	<b>セブン・イレブン【A】</b> 2人組になり、片手で0～5までの数字を示す。2人の合計が7になったらほかの相手と2人組になって続ける。慣れてきたら3人組を作り、それぞれが片手で0～5までの数字を出し、合計11をめざす。
			<b>共通点【C】</b> 3人組になる。1分以内で、できるだけ多くの共通点を見つける。1分経過したら、共通点の個数を発表し合う。違う3人組を作り、繰り返す。	<b>3つの自分【C】</b> 配られた紙に、人に知られてもよい各自の秘密のデータを3つずつ記入する。それを回収し、リーダーが1枚ずつ読み上げて、みんなでだれのデータかをあてていく。
2	また、中学校生活への期待や不安も出始める頃だと思われる。	<b>「もっとよく知り合おう」</b> 時間とともに、それぞれのイメージや学級内の人間関係が固定化されてくる。今まで見えなかった面を引き出し、新しい人間関係づくりをすることで、新たな学級展開をめざす。  (2)	<b>ふりかえり【X】</b> 一人ひとりが、1年の初めに学級がうまくいくために必要だと感じたことを再確認し、今後大切にしたいことを言いながら、ボールを箱に入れていく。(ビーイング)	<b>サンクス【X】</b> 1年間の活動の中で感謝したいことを、一人ひとりに対して具体的に述べる。発言の前に、具体的な場面をよく思い出す時間を用意しておくことが重要である。
3	卒業式の練習が始まり、立派な卒業式にしようとする全員の心が一つにまとまってくる。これまでお世話になった方々へ感謝の気持ちを抱くと思われる。	<b>「最後の挑戦」</b> 一人ひとりの感想や印象を自由に表現する場を作る。それにより、活動全体に対する振り返りを行い、気づいたことを確認し、共有する。また、より現実的な課題について考える機会とする。  (2)		